

久保田 信¹：和歌山県みなべ町の海岸へ漂着した特大の軽石Shin KUBOTA¹ : Giant pumice washed ashore at a coast of Minabe Town, Wakayama Prefecture, Japan

和歌山県沿岸には黒・褐色から灰白色までの様々な色調の軽石が漂着するが、それらのサイズは子供の握りこぶしよりも小さなものが大半である。ところが、特大の軽石が恐らく2014年にみなべ町小目津浜（長さ150mほどの砂浜）に流れ着いた（久保田 2014参照）ので、今回報告する。

この灰色の多孔質の軽石には角張った所はなく、表面に付着生物は見当らなかった。その長径は28cm, 短径17.5cm, 厚さ10cm, 重量2.35kgで、片面は平たいが他面は丸かった（図1, 2）。これまで和歌山県沿岸などで筆者が過去15年間に発見できた軽石の中で、最大であった。和歌山沿岸へ漂着した大形の軽石3個のこれまでの記録は、白浜町瀬戸漁港へが、長径25cm・重量630g, 京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”へが、長径16cm, 16.4cm, 重量694.2g, 724.5gであった（久保田 2015, 2017）。

日本本土の海岸に漂着する軽石は15cm以上のものは稀だが、30–40cmをこえるものもあり（加藤 2009）、大形の軽石（長さ35cm・重さ2.5kg；直径26cm・重さ1870g）が長崎県に漂着した記録がある（石井 1999；中西 2010）。さらに石井（1999）は、マリアナ諸島北部の海底火山からの噴火で流失した20cmの軽石が琉球列島に漂着したことも記録している。従って、今回の軽石は特大の一例となるものの、どこで形成されたかは不明である。

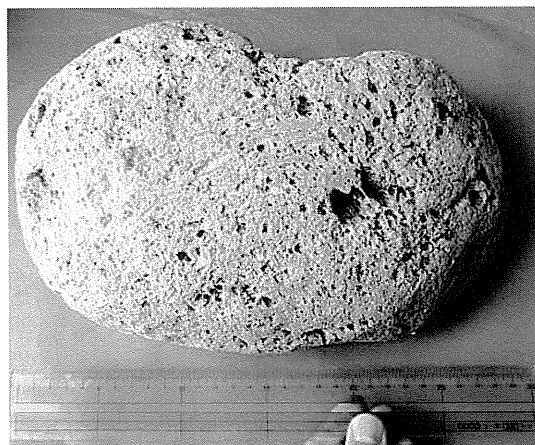


図1, 2 和歌山県みなべ町の海岸へ漂着した特大の軽石（90°角度向きを変えて撮影）

謝辞：貴重な情報をお知らせ下さった北海道教育大学の鈴木明彦博士に深謝致します。

引用文献

- 石井 忠. 1999. 新編 漂着物辞典. 380頁+11頁, 海鳥社, 福岡市.
 加藤祐三. 2009. 軽石—海底火山からのメッセージ. 264pp. 八坂書房, 東京.
 久保田 信. 2014. 和歌山県みなべ町に打ち上げられたウミギク貝殻の穿孔について. 漂着物学会誌, 12 : 55-56.
 久保田 信. 2015. 和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所周辺海岸へ漂着した大きな軽石. 漂着物学会会報「どんぶらこ」, (52) : 18.
 久保田 信. 2017. 和歌山県白浜町に所在する瀬戸漁港へ漂着した大形で平たい軽石. 漂着物学会会報「どんぶらこ」, (56) : 1-2.
 中西弘樹. 2010. 大型の軽石の漂着. 漂着物学会会報「どんぶらこ」, (33) : 7.

(Received May 25, 2017; accepted Jun. 15, 2017)

¹ 京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所 〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町459

¹ Seto Marine Biological Laboratory, Field Science Education and Research Center, Kyoto University, Shirahama Town 459, Nishimuro, Wakayama Prefecture 649-2211, Japan